



11 青緑耶馬溪真景図

一巻

斎藤崎庵

明治十三年(一八八〇)

絹本着色

二七・五×二七・六

斎藤崎庵(一八〇五〜八三)は但馬国城崎温泉の旅館に生まれ、十代のころ京に上って尾張出身の文人画家・中林竹洞に師事し、山水画をよくした。出身地である但州や播州を拠点とし、全国を旅してまわった。五十歳をひかえた嘉永六年(一八五三)には六年におよぶ西遊に出ているが、このとき豊前の日田に逗留したことが判明している。耶馬溪にも赴いたのであろう。耶馬溪は漢詩人・頼山陽によって文政元年(一八一八)に発見、命名された溪谷で、その中国山水画のような奇観が、多くの文化人にとって憧憬の対象となった。本作は最晩年の崎庵が、東京の駿河台に移住した後を描き、皇室に献上したものである。耶馬溪特有の雄大な峰々が、雲が湧き出るような動感をもって描写されている。岩肌には巻頭から巻末まで、濃やかな点苔が入念に打たれている。その瑞々しい描写は、若き日に見た耶馬溪の景観が、崎庵の脳裏に鮮明に記憶されていたことを伝える。

巻末に落款「耶馬溪真景 明治十三年庚辰三月工流 斎藤仲淳謹写」、朱文印「崎庵」がある。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

海と山のあいだ ―近代日本の風景描写

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 86

編集 宮内庁三の丸尚蔵館
制作 株式会社アイワード
翻訳 黒川廣子
発行 宮内庁
令和二年七月二十三日発行

©2020, The Museum of the Imperial Collections, Sanmomaru Shozokan